

生態工学 2016 年 第 2 回理事会 議事録

日 時：2016 年 10 月 18 日（火）14:30～15:20

場 所：東京文化会館

出席者：会長、副会長、各委員会委員長および庶務理事

【総務委員会】

2016 年度総務委員会活動報告(10 月期)

- (1) 会員数・賛助会員数に関して報告があった。
- (2) 審議事項
 - ・協賛依頼に関して
 - 「第 27 回 SHITA シンポジウム」協賛依頼に関し承認された。
- (3) 報告事項
 - 1) 協賛依頼に関して
 - ・「第 2 回農業電化シンポジウム」協賛に関して報告があった。
 - ・「アグロイノベーション 2016」特別協賛に関して報告があった。
 - 2) 学会誌 (Vo128-No3) 誤発送に関して
学会誌 (Vo128-No3) 発送の際に誤って一部の会員に対して、誤発送があり事務局より報告があった。

【編集委員会】

2016 年度編集委員会活動報告(10 月期)

- (1) 生態工学会誌の発刊
下記の報告がなされた。

生態工学会誌「生態工学」28 巻 2 号～28 巻 3 号(2016 年 4 月、7 月発刊)を発行した
(内容：原著論文 5、短報 1、お知らせ 2、投稿規程、総ページ 59)。現在準備中の
27 巻 4 号では、原著論文 5 報を掲載予定。
なお、2016 年 10 月 12 日時点での査読中および受理済みの論文は、原著論文で査読
中が 1 報、著者修正中が 1 報、受理済みが 4 報である。
また、28 巻 3 号までを J-STAGE 上の電子ジャーナルとして公開した。

2016 年度「生態工学」掲載論文一覧

| 種類 | 第 28 巻 | | | 第 29 巻 |
|------------|--------|---|---|--------|
| | 2 | 3 | 4 | 1 |
| 特別寄稿 | | | | |
| 特集論文 | | | | |
| 原著論文 | 3 | 2 | | |
| 短報 | | 1 | | |
| 総合論文 | | | | |
| 解説・資料 | | | | |
| 受賞記念寄稿 | | | | |
| ニュース・企画・報告 | | | | |

【企画委員会】

2016 年度企画委員会活動報告(10 月期)

下記の報告がなされた。

(1) 日本地球惑星科学連合2016年大会（合同開催）

日 時：2016年5月22日（日）～5月26日（木）

会 場：幕張メッセ（千葉市）

主 催：日本地球惑星科学連合

特記事項：22日（日）にセッション「閉鎖生態系における生物のシステムを介した物質循環」において、5件の口頭発表と4件のポスター発表を実施。また、同日若手の会主催の関連集会を開催した。

(2) 2016年度生態工学会年次大会（主催）

日 時：2016年6月24日（金）、25日（土）

会 場：宮崎グリーンズフィア壱番館（KITEN）（宮崎県宮崎市）

参 加 数：65名

特記事項：一般セッション口頭発表 14課題、ポスターセッション27課題

特別講演会「宮崎発の技術で生態工学に貢献」

1. 食糧として利用する高機能植物の開発

宮崎大学農学部 教授 國武 久登 氏

2. 宮崎の日照を生かした太陽エネルギー利活用技術

宮崎大学工学教育研究部 准教授 西岡 賢祐 氏

(3) 第60回宇宙科学技術連合講演会（共催）

日 時：2016年9月6日（火）～9月9日（金）

会 場：函館アリーナ（北海道函館市）

主 催：日本航空宇宙学会

特記事項：8日（木）にオーガナイズドセッション「宇宙で生きる！」を企画し、14件の講演を行った。例年になく新顔の聴講者が多かった。

次回は2017年10月24日（火）～26日（木）朱鷺メッセ（新潟市）の予定

(4) 第9回 生態工学定例シンポジウム (共催) -

日 時：2016年11月18日 (金) 11:00~17:00

会 場：千葉県福祉ふれあいプラザふれあいホール (千葉県我孫子市)

共 催：日本農業気象学会関東支部

特記事項：合同シンポジウム「大都市気候から有人宇宙活動までテクノロジーで支える・測る未来」

1. 守りの防災から攻めの防災へ —農業分野への波及をめざして—

防災科学技術研究所 横山 仁 氏

2. 日本の有人宇宙活動のための環境制御・生命維持システム(ECLSS) 技術

宇宙航空研究開発機構 桜井誠人 氏

施設見学：(一財) 電力中央研究所我孫子地区設備見学会

(5) 定例研究会

第1回

テ ー マ：生態工学はパリの期待に応えるか? ~緩和と適応~

日 時：2016年6月14日

会 場：東京文化会館

講 師：水谷 広先生 (日本大学・生物資源科学部)

第2回

テ ー マ：動物行動学者が閉鎖居住実験に参加して

日 時：2016年10月18日

会 場：東京文化会館

講 師：篠原 正典先生 (帝京科学大学)

※第3回も理事会後に実施する予定

【表彰委員会】

2016 年度表彰委員会活動報告(10 月期)

下記の報告がなされた。

(1) 表彰式の実施

2016年6月27日、宮崎グリーンスフィア壱番館 (KITEN) コンベンションホールにて開催された2016年度総会の後に表彰式を行ない、以下の通り表彰した。

【特別功績賞】

竹内 俊郎 殿

閉鎖生態系飼育システムに関する一連の研究および学会活動に対する功績

【生態工学会賞学術賞】

宮嶋 宏行 殿

閉鎖環境生命維持システムに関する研究

【論文賞】

中林 和重殿

低肥料施用下で土耕栽培されたオオムギの生体電位自動 検出に連動した 20 Hz 赤色点 滅光照射による成長の改善

【奨励賞】

陶 通拉嘎殿

関東地域における土地被覆タイプ間の NDVI および iTVDI の比較

山本 弾殿

光質がリーフレタスの生育と抗酸化能へ及ぼす影響

【講演論文賞】

遠藤良輔殿, 前田全敏殿, 渋谷俊夫殿, 北宅善昭殿

メタン発酵消化液を養液栽培に適用するための改質処理の検討ー炭酸カルシウムの投入による硝酸への転換の促進ー

山下瑞季殿, 渡邊博之殿, 石田快殿

光質の違いがイチゴの開花数および果実収穫数に与える影響

井上琴美殿, 木村駿太殿, 新井真由美殿, 加藤浩殿, 佐藤誠吾殿, 富田 - 横谷香織殿

火星環境を想定した貧栄養培地における陸棲藍藻 *Nostoc* sp. HK-01 の生育

(2) 2017 年度学会賞候補者の募集

2017 年度学会賞候補者の推薦を募集しています (vol. 28 No. 4 に掲載予定)。

締め切りは 11 月 30 日。

(3) 賞状および記念品の送付

2016 年次大会において講演論文賞 (3 件) を受賞された方々に賞状と記念品の準備を行い、送付した。

【広報委員会】

2016 年度広報委員会活動報告(10 月期)

下記の報告がなされた。

・SEE Quick (メール配信) の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、会員並びに関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ 2016 年 4 月 1 日から 2016 年 10 月 13 日までに 49 回 (通算 1198 回) 情報提供を行った。

・HP の内容の更新

HP 内の各コンテンツの確認・更新作業 (トップページ、定例シンポジウム等) を行った。

【関西支部】

2016 年度関西支部活動活動報告(10 月期)

下記の報告がなされた。

関西支部では下記のシンポジウム開催（日本農業気象学会近畿支部会との共催）を予定

仮題：『気候変動とその生態系や私達の暮らしへの影響を考える（3）—副題（検討中）—』

・開催日：2016 年 11 月 26 日（土） 14 時 00 分～16 時 45 分

・場所：大阪工業大学うめきたナレッジセンター

（地下鉄・阪急・阪神梅田駅・JR大阪駅下車）

〒530-0011 大阪市北区大深町 3 番 1 号 グランフロント大阪

ナレッジキャピタルタワー C 9 階 <http://www.oit.ac.jp/umekita/#Access>

・内容：講演会を予定※

・その他：17:00 ごろから情報交換会を予定（参加費無料）

※講演をしてくださる方（2 名）を募集中。

（ただし、旅費、謝金は残念ですがご用意しておりません。）

【その他】

下記の報告がなされた。

（1）2017 生態工学年次大会に関して

2017 生態工学会年次大会を以下の要領で開催します。詳細は、学会ホームページ（<http://www.see.gr.jp/>）にて、順次ご案内いたします。会員各位は奮ってご参加ください。

1. 日時：2017 年 6 月 23 日（金）～24 日（土）

エクスカージョンを 6 月 22 日（木）に予定しています。

2. 会場：東京海洋大学品川キャンパス楽水会館

〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7

会場までのアクセス

- ◆ JR 線・京浜急行線品川駅自由通路港南口（東口）を出て直進（東方向）、「東洋水産」、
「御楯（みたて）橋」を経て、徒歩 10 分で正門着。正門から 1 分。
- ◆ 東京モノレール天王洲アイル駅から「ふれあい橋」を渡り、裏門まで約 650m。
- ◆ 東京臨海高速鉄道天王洲アイル駅から「ふれあい橋」を渡り、裏門まで約 850m。裏
門より会場まで 5 分。
詳細は東京海洋大学ホームページをご覧ください。

<https://www.kaiyodai.ac.jp/overview/announcement/access/shinagawa.html>

3. 行事予定

一般研究発表セッション（口頭発表、オーガナイズドセッション、ポスター発表）、
特別講演会、施設・博物館見学、総会、表彰式、懇親会、役員会、その他委員会

4. 大会参加費・懇親会費

| | 大会参加費 | | 懇親会 |
|-------|--------|--------|--------|
| | 事前申込 | 当日払い | |
| 会 員 | ¥5,000 | ¥6,000 | ¥5,000 |
| 非会員 | ¥6,000 | ¥7,000 | ¥6,000 |
| 学生会員 | ¥2,000 | ¥2,500 | ¥2,500 |
| 非会員学生 | ¥2,500 | ¥3,000 | ¥3,000 |

5. 一般研究発表の募集

一般研究発表セッションは、口頭発表とポスターセッションを募集します（**申込期限：2017年4月17日(金)**）。口頭発表の講演時間は、質疑応答も含め15分を予定しています（発表申込件数により変更する場合があります）。

ポスター発表は、コアタイム（発表者がポスターの前にいる時間）を設けます。発表申込件数により、発表方法の変更をお願いすることがあります。

発表論文は、1課題につきA4サイズ2ページとします。また、発表論文の提出期限は**2017年5月8日(金)**です。執筆要領等は大会ホームページでお知らせ致します。

6. オーガナイズドセッションの募集

オーガナイズドセッションは、1時間15-30分の枠で実施していただきます（ただし、発表申込状況やセッションの内容によって、プログラム委員会が調整を行う場合があります）。オーガナイザーは学会の部会、有志、個人など、どのような形態でも結構です。

オーガナイザーは事務局にセッションの申込を行って下さい（**セッション申込期限：2017年4月3日(金)**）。申込のあったオーガナイズドセッションは、セッションテーマと内容を大会ホームページに掲載します。

オーガナイズドセッションの運営は、オーガナイザーに一任いたします（どのようなスタイルをとっていただいても結構です）。

【オーガナイズドセッション申込方法】

オーガナイザー氏名（複数可）、連絡先（郵便番号、住所、所属、E-mail、Tel、FAX）、セッションタイトル、セッションの内容（100字程度）を記入し、年次大会事務局までE-mailでお申し込みください。

7. 参加・発表申込方法

学会ホームページの申込みフォームからお申し込み下さい。発表申し込みの際に、口頭発表またはポスター発表を選択してください。各セッションの申込状況により、希望通りのセッションで講演できない場合がありますのでご了承下さい。発表申込期限は、**2016年4月15日(金)**、発表論文の提出期限は**2016年5月13日(金)**です。

8. 締め切り一覧：

| 内 容 | 期 日 |
|-------------------|------------|
| オーガナイズドセッション企画案提出 | 2017年4月3日 |
| 一般発表セッション申込み | 2017年4月17日 |
| 発表論文提出 | 2017年5月8日 |
| 事前参加費振込み | 2017年6月16日 |

9. 年次大会事務局（問合せ先）

お問い合わせにつきましては、できるだけE-mailにて年次大会事務局までお願い
します。

【年次大会事務局】

担当 寺添 斉

電力中央研究所 環境科学研究所

環境化学領域内

〒270-1194 千葉県我孫子市我孫子 1646

E-mail : terazoe@criepi.denken.or.jp

Tel : 070-6568-9767 (直通) 04-7182-1181 (代表)

Fax : 04-7183-3347

(2) 学会内ワーキンググループに関して

総務委員会の下部組織として組織することとなった。

なおメンバーは下記

グループ長：土肥哲哉

メンバー：遠藤雅人、北宅善昭、木部勢至朗、桜井誠人、渡邊博之（アイウエオ順）

定例研究会等にて発表（理事会日程の午前中に行う案もあり）活動を行う事となっ
た。

(3) タイとの国際シンポジウム企画に関して

カセサート大学と共同開催を予定。

白石文秀国際理事を長とし、下記のメンバーにて構成

メンバー：遠藤雅人、北宅善昭、木部勢至朗、富田-横谷香織（アイウエオ順）

また、研究発表テーマとして下記を検討中

1. 生態系を含む複雑系のシミュレーション
2. バイオマスの利・活用／リニューアブル・エネネルギー
3. 生物相互作用を利用した環境低負荷型農業システム
4. 養殖・水産資源の保全
5. 熱帯雨林の開発と保全
6. 林産資源の保全と問題点
7. その他